

9月定例会最終日

民間放課後児童クラブに補助金交付



米原市民報

日本共産党米原市会議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党湖北地区議員団
事務局藤田正雄 Tel.55-1128

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

第3回定例会は9月26日で終わりました。放課後児童クラブ保護者負担金の増額引上げ問題の続報を掲載します。また今回民間の放課後児童クラブに補助金が交付されることになりました。山脇議員が継続して要求してきたことです。

山脇議員の 追求実る

山脇議員が、3月と6月定例会の一般質問で求めたきた補助金、39万1千3千円が実現しました。3月定例会の一般質問に対し、市長は、「民設であろうが公設であろうが、決して差があつてはならないと基本的に考えています。」と答弁していました。まだ民間放課後児童クラブ1か所への補助ですが、来年度以降、さらなる民間クラブの参入が望まれます。

保護者への配慮を欠く

今回の引上げは、いきなり最大37%の大幅値上げになり、年間10万円をこえる負担になることは、後藤議員は大幅値上げについて一切言及していません。兄弟2人の場合の軽減措置でも20%の値上げとなります。健康福祉常任委員会でも、この大幅値上げへの心配や議論はひとつもありませんでした。今でも高い負担金を支払っている保護者への心配に寄り添うことをしない冷酷な考えと言っているでしょう。国に合わせて数字だけを追う冷たい仕打ちです。

国の基準は絶対か

また後藤議員は、国の考えを絶対視していますが、国の考えは、県や市をしぼる基準ではないし、これから国の負担割合が増えていくべきものです。さらに、児童支援員の給与のことまで述べていますが、そもそも児童支援員の待遇改善は、公的な責任で行うべきものです。8千円を9千円に上げたからといって、児童支援員の待遇改善に使われるわけではないのです。

財政難は事実か

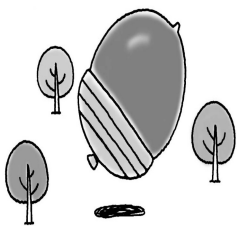
最後に、後藤議員は、財政難をおおっています。米原市の各種の財政指標は、とくに問題となる点はありません。米原市は健全な財政を確立したうえで、県下一子育てをしやすいまちを目指しているのです。

放課後児童クラブ負担 金上げきつくて(経産)

後藤議員の主張

清風クラブの後藤議員(自民党)の最終日討論での主張は次の通りです。

本来、国の考えでは、保護者が放課後児童クラブの運営費の2分の1負担すべきところ、市は値上げを放置してきた。9千円(原案8千円)の修正案は、国の考えより負担金を下げて、値下げしているいい案だ。根拠のない補助を続けたら、借金がかさむ。財政が枯渇



雑感(山脇議員談)

もととは保守会派の一部議員が画策したことです。この議員の横柄な言動に健康福祉常任委員会が引きずられてしまったのが事実。同委員会を傍聴してこの時ほど、共産党議員ひとりの悔しさを感じたことはありません。私と一緒に引上げ修正案に反対した、あるベテラン議員も言っていたのですが、今回の修正案の出し方は異常でした。本来、本会議で原案を否決してから、修正案を会派などで提案するのが筋でしょう。というのも、委員会のメンバー以外、原案を審議討論できないことになり、議会制民主主義を踏みにじるものです。猛省を求めたいと思います。なお、本会議で委員長に質疑したのですが、委員会でも提出された修正案資料の9千円の算定根拠が間違っていたのです。あわてて、修正提案議員が訂正して本会議に提出するという、ありえない不手際がありました。その間違った資料を参考にして、委員会でも修正案が可決されたのです。米原市議会上大きな汚点を残すものです。子育て中の保護者の皆さんなどからは、引上げ修正に対する怒りとともに、反対討論を行った私への励ましと感謝をいただいています。ありがとうございます。この問題については、12月定例会などで追及していきます。